

平成 28 年度 事業実績報告書

社会福祉法人 窓 ふじの子第二保育園

1. 園児の確保

(1) 入所児童の状況

	定員	組数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳児	8	1	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
1歳児	11	1	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132
2歳児	12	1	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
3歳児	13	1	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156
4歳児	15	1	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8	93
5歳児	16	1	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
計	75	6	56	56	56	57	57	57	57	57	57	57	57	57	681

入退所状況

・7月 1日 入所 4歳児 1名

(2) PRの方法

要覧、パンフレットの充実を図ることにより、園見学者へ明確に説明することができ、園への理解度も高まり、信頼を得ることができた。

園庭開放や園行事への参加も徐々に増え、親子で楽しんでもらえる機会となり、地域貢献への一助となっている。

(3) 入園決定を例年より早く、保護者の方に知らせていただくことにより、安心して面接に来られ、面談がスムーズに行えた。

2. 教育・研究の推進

(1) 保育目標

「子どもは宝」の基本理念は、保護者に理解されやすく、保育者も子どもにとって、最優先は何かを理解し、取り組んでいた。

(2) 教育課題

年間指導計画を見直すことによって、更なる保育者の大切にしていかなければならないことが分かりつつある。保育計画だけを立てるのではなく、2園、各学年の話し合いの充実が必要であることが理解できた。

(3) 研究課題

2年目の「伝承遊び」の取り組みで、0～2歳児は“お手玉”と“輪”を素材として、また、3～5歳児は、“けん玉”で各年齢の発達の特徴を確認でき、遊びの環境の整え方次第で子どもの遊び心の芽生え、発展の仕方が分かり、展開の取り組みが分かり、ふじの子ワールドにまとめながら保育計画の充実、伝承遊びの楽しさを知ることができた。また、2園が一緒に取り組むことにより、コミュニケーションの大切さが分かり、より一層、保育の楽しさを保育者自身も理解することができた。

3. 職員構成

	28年度	備考
統括園長	1	
園長	1	
副園長（非）	1	
主任保育士	1	
保育士	10	
保育士（非）	3	
事務長	1	
調理担当	3	業者委託

4. 施設、設備の整備

- (1) 屋上園庭に取り外しの出来る登り綱、ブランコを設置することにより、屋上園庭の遊びの変化が生まれ、活動の巾が広がった。また移動式鉄棒は、本園より一段低い物を購入したので、2園の園児たちの運動量が増えた。
- (2) 教育研究用機器、備品
ままごとセット、粘土セットの充実を図ることにより、室内遊びでの子ども同士の交流が深くなった。
- (3) その他
防災ズキンを使用すると、避難訓練に緊張感を持つことができた。

5. 収支計画

別紙参照

6. その他

- (1) 朝、夕共に延長児が増え、長時間保育を余儀なくされている子どもの健康、精神面を細やかに目配り、気配り、心配りをして行った。
- (2) 親と子の支援活動は諸行事のみだけでなく、日頃の親子の関わり方の様子を見極め、六者会議の中で密に話し合い、保護者への対応は、親から話せられる雰囲気作りを持ち、十分親の話を聴き、少しでもリラックスして子どもとの関係がスムーズに行けるように時間をかけた。
- (3) 講師（絵画、英語、体育、リトミック、茶道）の招へいにより、保育の変化が楽しめたり、専門性を身に付けたりできることにより、保育の質、保育の充実につながることに、2園間の子どもとの交流の巾と深さが増えたと思われる。
- (4) 短時間保育児が少し遅れて朝のおやつを食べるがその子どものペースを見守り、みんなと一緒に参加できる環境が作れた。
- (5) ふじの子保育園、第二保育園の特徴を構築していくことができた。
- (6) 2園の親子交流の場を無理なく持ち、少しでも顔見知りになり、子どもだけでなく、親同士のコミュニケーションが取れた。（お泊り保育のお迎えの機会を利用）
- (7) 職員の働きやすい環境づくりの一環として、勤務時間の厳守、そのためのパート保育士の雇用の充実のお陰で子ども優先の保育と共に保育者同士のコミュニケーション力も高まって来た。